2013/2014 シーズン　2014 年 2 月 20 日

横浜市インフルエンザ流行情報　13 号

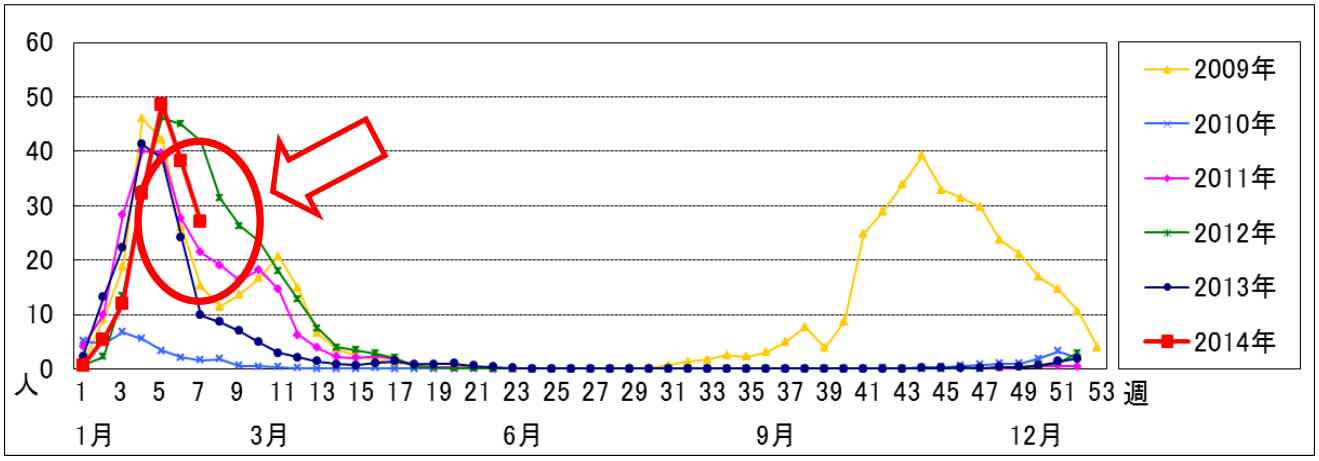
横浜市健康福祉局健康安全課　／　横浜市衛生研究所

《トピックス》

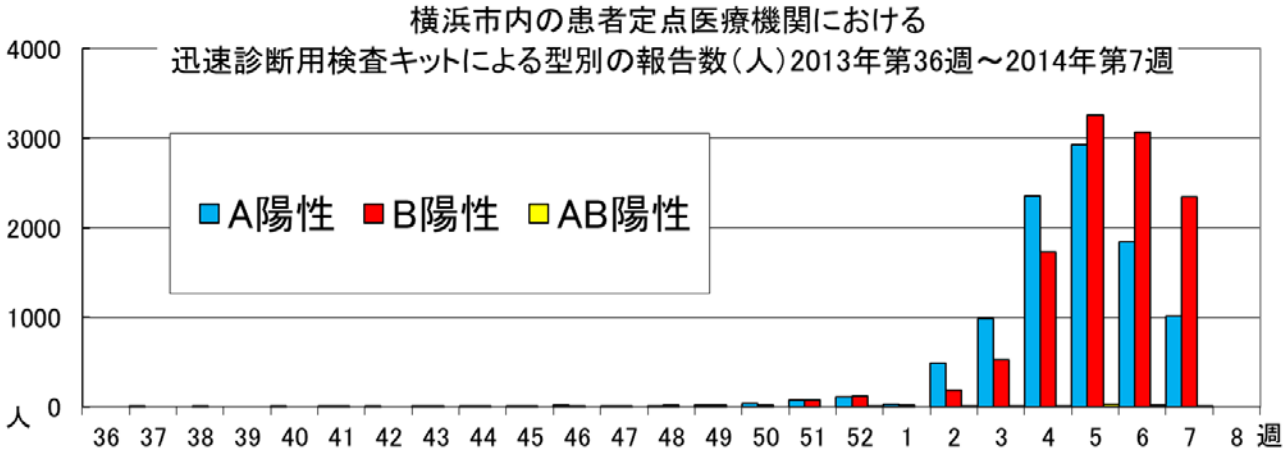
- ２週連続して定点※1 あたりの報告数が減少し、流行のピークは過ぎたものの、依然として報告の多い状況が続いています。
- 感染予防や早期受診などの対策※2 が重要です。

※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関（市内 152 か所）のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
※2 インフルエンザ予防チラシ（横浜市）

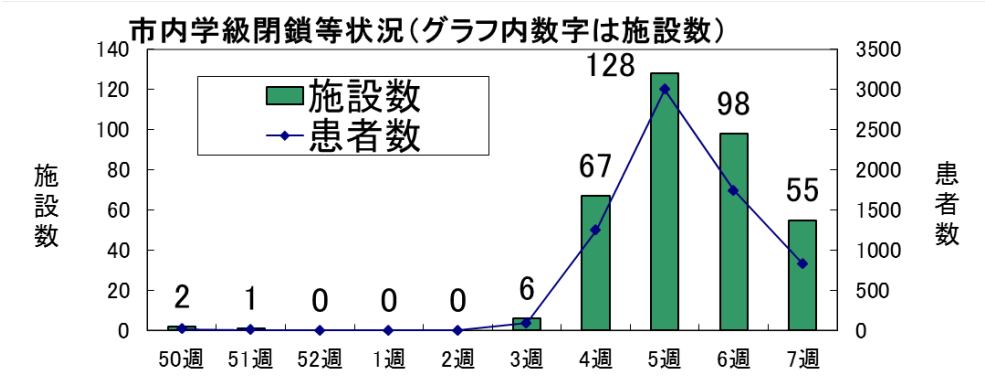
1　市内流行状況：市全体の定点あたりの患者報告数は、第 7 週（2 月 10 日～16 日）26.97 と、前週の 38.16 からさらに減少しましたが、区別では、都筑区 45.8 や緑区 41.00 で定点あたりの報告数が 40.00 を超える状態が続いています。



2　迅速キット結果：第 7 週は A 型 30.0%、B 型 69.7%、A 型 B 型ともに陽性 0.3%と、B 型が 7 割程を占めています。A 型の減少が顕著です。

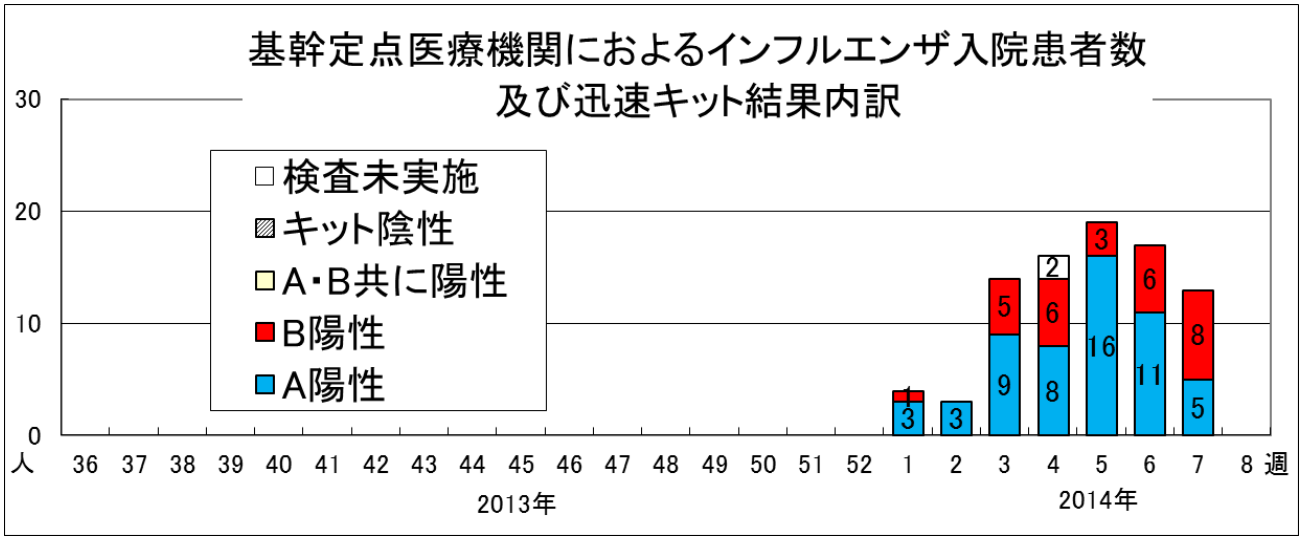


3　市内学級閉鎖等状況：閉鎖施設数は第 5 週をピークに減少が続いています。第 7 週の施設種別では、小学校 50 件、幼稚園 5 件でした。



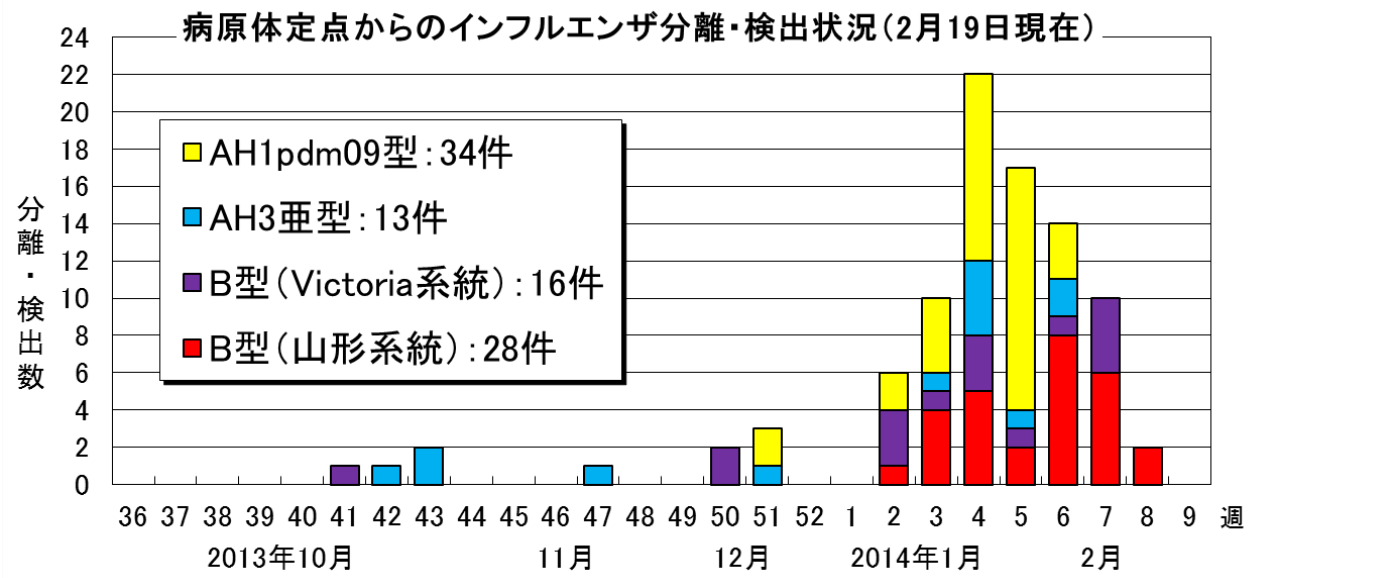
4　入院サーベイランス：基幹定点医療機関※3 における、インフルエンザの入院患者数は第 5 週以降減少し、迅速キットの内訳では徐々に B 型の割合が増加しています。

※3　基幹定点：患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。



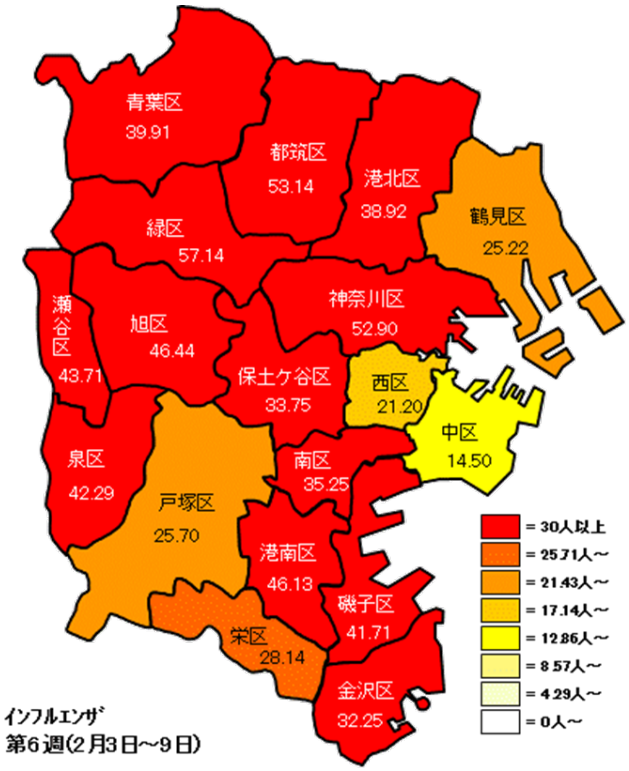
5　インフルエンザ脳症：第 4 週に幼児の報告が 2 件（AH1pdm09 型および AH3 亜型）ありました。長野県では生来健康な9歳児がインフルエンザ脳症を発症し、発症から2日目に死亡した事例が報告されており、注意が必要です。

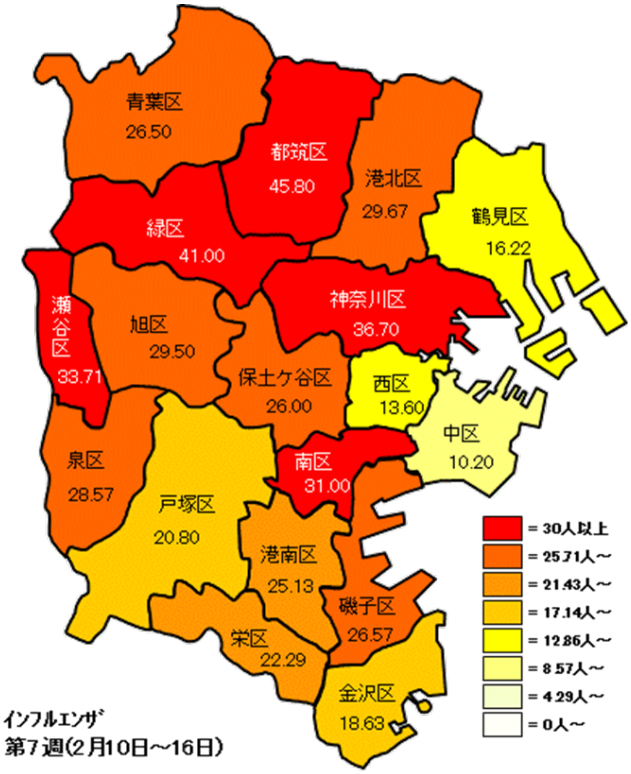
6　市内病原体検出状況：市内では病原体定点から今シーズン計 91 件インフルエンザウイルスが分離・検出されています。今年に入り AH1pdm09 型が多く検出されていましたが、第 6 週以降は B 型（山形系統）が多く検出されています。



7 分離株の耐性検査：衛生研究所で AH1pdm09 型の 55 株を検査したところ、耐性ミックス株（275H/Y）（注：薬剤治療中または治療後の患者の検体からは、薬剤により耐性が誘導された株と通常の株がミックスされたもの（耐性ミックス株）が検出されることがあります。通常はそのウイルスが地域で流行することはありません。最近話題になっている耐性株とは異なります。）が 3 株見つかっていますが、耐性株（275Y）は見つかっていません。

8 区別流行マップ





【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(754)9815